

2020年度事務局報告

2020年度の体制・ネットワーク

【事務局スタッフ】

アルバイトスタッフ：3名（小川、西島：会計、露木：～6月）

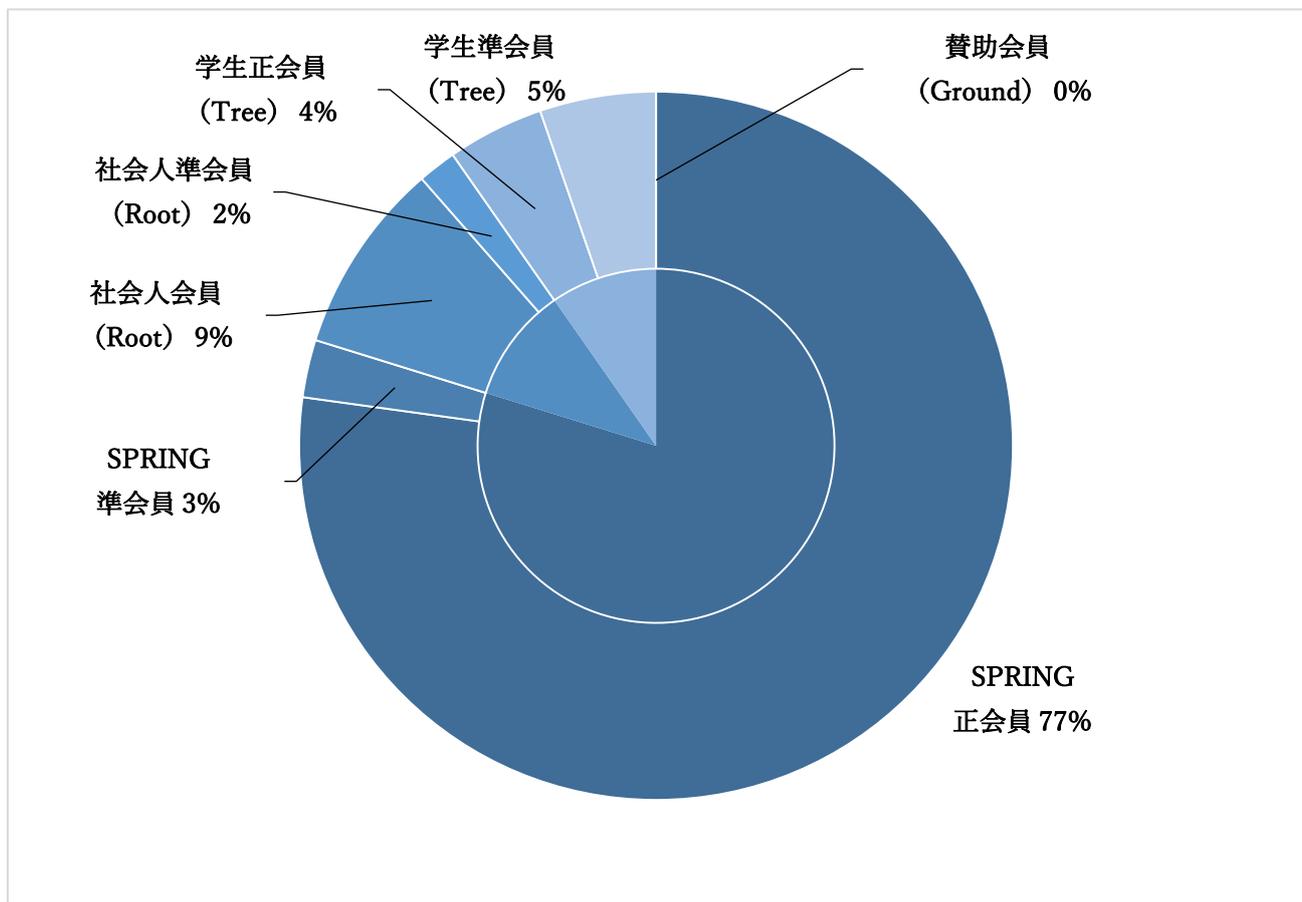
ボランティアスタッフ：3名（会計：富田、Web／広報：長峰・浦山）

【会員】

会員種別	2020年度	2019年度
SPRING 正会員	88	93
SPRING 準会員	3	3
社会人 (Root) 正会員	10	12
社会人 (Root) 準会員	2	5
学生 (Tree) 正会員	5	7
学生 (Tree) 準会員	6	11
賛助会員(Ground)	0	0
合計	114	131

昨年度と比べて SPRING 会員は 6 名退会し、1 名入会しました。また、単年度会員の減少については、対外的な活動の自粛に伴う、活動メンバーの減少による影響が大きいと予測しています。OB/OG 会員との関係強化や情報共有に力を入れるとともに、会員サービスの充実をはかり、会員数の安定および増加を目指します。マンスリーサポーターは、昨年よりも 2 名増え、10 名になりました。

(3月31日時点)



【役員】

理事

氏名	所属	担当
濱田恒太郎	会社員	代表/運営統括
三本裕子	日本 NPO センター	組織基盤
江口健介	環境パートナーシップ会議	組織基盤
大坂紫	会社員	30周年プロジェクト担当

監事

矢口拓也	会社員
------	-----

【賛同・協力案件】

11月20日 認定 NPO 法人アニマルライツセンター「バッテリーケージの卵を食べたくない！キャンペーン」賛同

【ネットワーク加盟】

- ・パワーシフトキャンペーン／賛同団体
- ・石炭火力を考える東京湾の会／賛同団体
- ・e シフト／参加団体
- ・グローバル気候マーチ／賛同団体
- ・市民電力連絡会／会員（休会）
- ・Fair Finance Guide Japan／協力団体
- ・気候ネットワーク／会員
- ・Japan Youth Platform for Sustainability(JYPS)／協力団体
- ・消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク / 参加団体
- ・「持続可能なスポーツイベントを実現する NGO/NPO 連絡会（SUSPON）」／加盟団体
- ・認定 NPO 法人振興会／会員
- ・NGO 非戦ネット／賛同団体
- ・日本 NPO センター／会員
- ・エシカルケータイキャンペーン実行委員会／賛同団体
- ・ドット・ジェイピー／会員
- ・グリーン連合／正会員
- ・SDGs 市民社会ネットワーク／正会員

2020 年度の事務局

■ 概説

昨年度の事務局は、フルタイムスタッフ 1 名を中心とした体制でしたが、2020 年度の 7 月より、実質的なパートタイムスタッフ 1 名による体制に移行しました。その中で、経理・会計業務に関しては、西島や富田に大部分を担っていただき、また、事務局会議に理事の濱田が参加することにより、事務局と理事会間の情報共有の円滑化を目指し、安定的な運営体制の構築に努めてまいりました。

なお、夏場に、業務が集中してしまった際には、1 人体制ということもあり、業務の分散化が出来ず、多忙感が続いた時期もありました。その経験を糧に、来年度は、スケジュールリングや優先順位を重視し、前倒しに業務を遂行して参りたいと思います。

また、2020 年度は、対外的な活動の多くを自粛していたこともあり、事務局業務の運営が大きく瓦解する様な場面は、ありませんでした。ただ、来年度以降、助成金の申請等の事業を実施していく可能性もあります。その為、当該年度に合った事務局体制を、理事会と対話しながら運営していく必要性を感じる一面もありました。

活動への関りとして、アクセスラボへの当日参加やコラボ勉強会での申込受付等の業務を担うことで、微力ながら活動への直接的な補助を行い、活動メンバーとコミュニケーションを取ってきました。

■ コロナ禍における事務局業務の運営

4 月の政府による緊急事態宣言の発出に伴い、テレワークを主とした業務運営に切り替えました。その後、郵便物の受け取りや役所関連の手続き等、来所が必要な業務の為に、週 1 回程度の事務所勤務を義務化しました。2021 年度末時点では、週 2-3 回程度の事務所勤務に落ち着いております。感染リスク対策に関しては、他団体の出勤状況の考慮や通勤ラッシュの時間帯を避ける等を行っております。

なお、Zoom や Google ドキュメント等の IT ツールの発達や無償化によって、テレワークの簡略化の容易さや可能性を感じる 1 年であったと同時に、役所の手続きや経理業務等のテレワーク化の難しい業務もあり、課題を感じる 1 年でもありました。

■ 事務所移転の見送り

現在、複数の NPO が所属しているシェアオフィス型の事務所を利用しております。その中で、コロナ禍によって使用頻度が低下した団体や、コロナ禍においてオンライン勤務を経験することで、事務所の必要性が薄れ、規模縮小を考える団体が多数見受けられました。実際に、事務所に来所した際の他団体の方とお会いする機会は、大きく減少しました。

その中で、2020 年度末に、現在の事務所よりも規模の小さい、より今のニーズに合った物件への移転が検討されました。物件の調査や運営団体の資金的な側面等を考慮した結果、2020 年度時点での移転は、見送られました。引き続き、物件の調査や新規入居団体の募集を行いつつ、2021 年度末に再度検討することになりました。

なお、それに併せて、asj としての今後の事務所のあり方（共に移転する又は単独で借りる、他のシェアオフィスに移る、事務所を失くす等）を検討をしていきます。

活動報告

2020年度イベント一覧

2020年4月

2020年5月

2020年6月

2020年7月

2020年8月

2020年9月

2020年10月

チーム横断 13日 明星学園高等部 講義
(参加理事：濱田)
(参加メンバー：田川、小川)

2020年11月

工口貯金 オンデマンド 明治学院大学 講義
ラボ 配信 (生徒65名がレポート提出)
(参加メンバー：田川)

2020年12月

2021年1月

2021年2月

コラボ勉強会 20日 A SEED JAPAN × iPledge コラボ勉強会：第1回「わたしたちの貯金が、社会問題につながっている!？」
(勉強会参加者：27名)
(参加理事：濱田、三本、江口)
(参加メンバー：田川、大坂、小川、佐藤)

2021年3月

2021年4月

コラボ勉強会 3日 A SEED JAPAN × iPledge コラボ勉強会：第2回「より良い社会を作るための人や社会、環境に配慮した消費行動と森のお話」
(勉強会参加者：19名)
(参加理事：濱田、三本、大坂)
(参加メンバー：江口、小川、井上、増尾、内藤)

報道採録

※掲載なし

■ASJのミッション・役割・活動形態について方針の振り返り

- ・歴代の ASJ 事務局長や代表、OGOB と ASJ のミッションを見つめ直すことを目的に「コア会議 (*)」の参加を呼びかけ、定期的に会議を行った。「コア会議」の中で創設者の羽仁カンタさんや過去の ASJ 事務局長、代表などと意見交換を行い、拡大・進行している社会課題に対して草の根の学び・協力・アクションをしていく ASJ のミッションの変更は必要はないことを再確認した。
- ・大学生などの若者との繋がりが薄くなっていたことから繋がり直しとともに課題意識を深めるために、NPO 法人 iPledge とのコラボ勉強会を新しくスタートした。結果全国からの参加者があり、彼女・彼らの意欲に応える場のひとつを作ることの重要性を確認することができた。
- ・過去に ASJ のプロジェクトに関わっていた OGOB と繋がり直し、今の ASJ の活動を伝えるための「Facebook グループ (<https://www.facebook.com/groups/3349741311770769>)」を立ち上げた。また、OGOB が多く加入している SPRING メーリングリストの運用を再開した。
- ・エコ貯金ラボは OGOB が繋がり合い問題意識や知見共有の場になるなど、OGOB が ASJ の活動を再始動する兆候も見出すことができた。2020 年 2 月には OGOB から新しく理事が 1 人創出された。
- ・新型コロナウイルスの影響下においてオフラインでの活動に制限が生まれたことで殆どの活動をオンライン上で行っている。デジタルデバイドの課題は依然としてあるものの、IT 化により全国の大学生への発信や次世代へのアプローチのしやすさなどのメリットがある。積極的な IT 活用機会の検討タイミングでもある。
- ・組織そのものが一度立ち止まることにより助成金申請は行わなかった。厳しい状況下の事務局だったが、事務局長代理とそれを支えるボランティアスタッフにより適切に運営を行うことができた。この間 ASJ を支えてくださった会員みなさま、OGOB のみなさまに改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

(*) コア会議 2020 年度メンバー

市瀬拓哉さん (いっちゃん、元ごみゼロ・NPO 法人地球デザインスクール)

八田 (鈴木) さと子さん (さとっち)

羽仁カンタさん (NPO 法人 iPledge)

田口康充さん (ペンギン)

■アクセ斯拉ボ

- ・基本的に担当の浜田とメンバーがオンラインの 1on1 で実施。1~2 (3) 週間に一度のペースで、1 回あたり 1 時間程度で行った。
- ・オリエンに申し込みがあったメンバーの入り口の間として問題意識を深めることを目的に実施し、現在 4 名 (学生 3 名、社会人 1 名) がメンバーとして活動している。その内 1 人はコラボ勉強会を通じてアクセ斯拉ボへの参加に至った。
- ・メンバーの興味や関心に沿って、そのテーマについて深めていくという形式で実施した。メン

バーの2名は、環境問題を全般的に関心を持っていたため、環境省の「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」を題材に、章ごとに読んできて、感想やわからないことに答え、ASJでこれまで取り組んできたエコ貯金や生物多様性 (ABS)、ケータイゴリラ、パワーシフトキャンペーンなど、その時のテーマに沿った内容と関連づけて意見交換を行った。

・また、これらの場を通じてコラボ勉強会の企画運営に関わったり ASJ の情報発信に取り組みたいという意志表明が生まれている。

■エコ貯金ラボ

・ASJの有志メンバーで、1～2カ月に1回、オンラインで内部勉強会を行なってきました。この度プロジェクト化が決まったため、昨年度の活動をこちらの報告欄で紹介します。

(投資信託・積み立てNISA、地域通貨、寄付と投資、ESG投資信託等)。毎回5名前後出席し、テーマ以外にも書籍の紹介や時事問題の共有等積極的な意見交換を行い、環境や社会に配慮した金融の大切さを改めて認識しました。

・この内部勉強会で、ESG投資信託の投資先が本当にESGに配慮しているのか?という疑問の中で、水関連ビジネスに投資する投資信託をピックアップし、岸本聡子さん著『水道、再び公営化! 欧州・水の闘いから日本が学ぶこと (集英社新書)』を参考に、水関連ビジネス企業への投資の在り方の是非を議論しました。

・対外的には、3年目となる明治学院大学法学部3年生向け講義「持続可能な社会に向けて」の一コマを担当しました。今回は動画を収録し学生が視聴するというスタイルで、65名の学生が受講しました。市民が社会性を意識した金融行動をとることの大切さを実感した、等の感想をいただきました。

・2020年度の実験を踏まえ、2021年度のプロジェクト化にあたっては、社会的金融の動向調査やNPO職員や若年層向け情報発信(資産形成の基本、社会的金融についての考え方等)等の対外的な活動を増やし、1人でも多くの方が社会性を意識した金融行動をとるきっかけを作るよう、活動していく予定です。

■コラボ勉強会

・NPO法人iPledgeとの共催企画としてオンラインの連続勉強会を実施。これまでASJが取り組んできたテーマを、SDGsにも関連づけて話題提供し、後半は参加者同士でどう思ったかなど感想を中心に意見交換をする形式で実施した。

・各回10名ほどの参加者の内訳は学生と社会人が半々だった。ActivoやPeatixなどNPO法人iPledgeの広報協力による申し込みが多く、企画メンバーも含めると毎回15～20名ほどの実施となった。

・開催概要

第1回 2021年2月20日(27人、スタッフ含む)

「わたしたちの貯金が、社会問題につながっている!？」

話題提供:江口健介さん(理事・環境パートナーシッププラザ)、田川道子さん(エコ貯金ラボ)

第2回 2021年4月3日 (19人、スタッフ含む)

「人、社会、環境にやさしい消費と森のお話」

話題提供：江口健介さん(同上)、井上あいみさん(天然住宅)